

医療倫理	医療倫理学
------	-------

[講義] 第2学年 前期 必修 [授業方法：PBLを含む] 2単位

《担当者名》講師 / 中山 章

【概要】

医療における倫理の重要性について学び、生命に関わる職業人となることを自覚する。それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。

【学修目標】

生命・医療に関わる倫理的問題について説明できる。
 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。
 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。
 医療の担い手としてのこころ構えを身につける。
 医療の担い手としてふさわしい態度を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス 現代医療における薬剤師の使命 教科書：p1～7	授業概要の説明 - 現代医療における薬剤師の使命について概説できる。 - プロフェッショナリズムの概念について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-1 1)、B-1-1 2)、B-1-1 3)	中山 章
2) 3	薬剤師が果たすべき役割と求められる倫理 教科書：p9～27	- 薬学・薬剤師の役割の変遷について概説できる。 - 薬学における倫理と法の係わりについて概説できる。 - 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。 - 世界の薬学教育について概説できる。 - 情報倫理と情報セキュリティについて概説できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-3 1)、B-1-3 2)、B-1-3 3)、B-1-1 4)、B-5-2 1)	中山 章
4	患者安全 教科書：p140～143	医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-3 3)	中山 章
5	患者安全 教科書：p140～143	代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を考察する。 【PBL】提示した資料に基づきプロダクトを作成する 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-3 3)	中山 章
6) 7	人権と患者の権利 教科書：p29～41	- 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 - 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 - 患者の権利に関する世界宣言（WHO憲章等）について説明できる。 - 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-2 1)、B-1-2 2)、B-1-2 3)	中山 章

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	生命倫理の概観：歴史と展望 教科書：p59～71	● 生命倫理の成立とその背景について説明できる。 ● 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-1 1)、B-1-1 2)、B-1-1 3)	中山 章
9 (11	生命倫理（生殖医療、脳死・臓器移植、終末期医療、先進医療） 教科書：p73～119	● 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 ● 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 ● 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べることができる。 ● 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べることができる。 ● 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識できる。 【PBL】提示した資料に基づきレポートを作成する 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-1 1)、B-1-1 2)、B-1-1 3)	中山 章
12 (13	臨床研究の倫理 教科書：p121～131	● 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 ● 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-1 1)、B-1-1 2)、B-1-1 3)	中山 章
14 (15	医療者－患者関係におけるコミュニケーション 教科書：p43～57	● 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 ● 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 ● 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 ● 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 ● 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 B-1-2 4)、B-2-1 1)、B-2-1 2)、B-2-1 3)	中山 章

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

期末定期試験（80％）、授業態度（レポート、演習態度を含む）（20％）により評価する。

レポートは返却しないが、次回以降の講義で解説するので、復習して活用すること。

なお、レポート、演習態度の評価では、ルーブリック表を用いる。

【教科書】

薬学生のための医療倫理 松島 哲久・宮島 光志編 丸善出版

【参考書】

新スタンダード薬学シリーズ 社会と薬学 新スタ薬シリーズ編集委員会編 東京化学同人

【学修の準備】

・1～4、6～10、13～15回目の授業では、classroomに講義資料を掲載するので、事前にダウンロードし教科書と併せて読んでおくこと。（70分）。

・講義中に、classroomを用いた確認テストを行うので、講義終了後は、小テストで、できなかった問題は教科書や講義資料をもとに確認しておくこと。また、講義に該当するSB0に関連するweb問題、教科書章末の演習問題を解き、できなかった問題は教科

書や講義資料をもとに確認しておくこと（90分）。

・5回目のPBLにあたっては、事前に資料をClassroomに掲載するので、事前にダウンロードし個々で調べて授業に臨むこと（70分）。また、授業終了後にはClassroomに、全員のプロダクトを掲載するので、他者のプロダクトを読んでおくこと（90分）。
・11～12回目のPBLにあたっては、事前に資料をClassroomに掲載するので、事前にダウンロードし個々で調べて授業に臨むこと（80分）。また、授業終了後にはClassroomに、全員のプロダクトを掲載するので、他者のプロダクトと比較し、レポートを作成すること（120分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム 1)～4)

B-1-2 患者中心の医療 1)～4)

B-1-3 薬剤師の社会的使命と法的責任 3)

B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション 1)～3)

B-5-2 デジタル技術・データサイエンス 1)

【薬学部ディプロマ・ポリシーとの関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。

【実務経験】

薬剤師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師としての実務経験を通じて得た知識・技能・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している